

3/2

第49333号

2013年(平成25年)

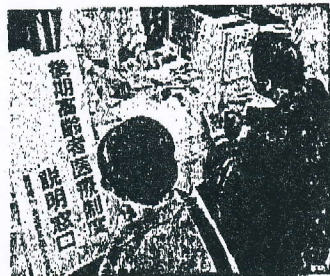
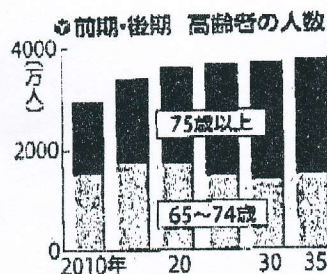
6月9日 日曜日

政治 4 国際 9
 経済 11 気流 12
 世評 13 14 15
 家庭 17 23 教育 21
 スポーツ 26 27 28 29
 小説 12 将棋 9

読賣新聞

発行所 読売新聞東京本社 〒104-8243 東京都中央区銀座6-17-1 電話(03)3242-1111(代) www.yomiuri.co.jp

島耕作 75歳になったら



島耕作75歳。
 髪は白くなったが背筋はピンと伸びている。ジーンズに下シャツ、ラフなジャケット。「企業の社会的責任」について社会人教室で講義中。
 そのイラストは、内閣府の「高齢社会対策の基本的な方策に関する検討会」が昨年まとめた報告書の冒頭にある。検討会メンバーで漫画家の弘兼史史さんが描いた。島耕作シリーズの主人公、10年後の姿だ。60歳未満。
 作者の弘兼さんは、島耕作を自分と同じ1947年生まれに設定している。団塊世代(47、49年生まれ)の先頭で現在65歳。前期高



引退後も社会に貢献

共生 2

早期高齢者・後期高齢者という呼称は耳障りだが、英語では「ヤング・オールド」という「ド・オールド」だ。認知症高齢者などの暮らしや財産を守る成年後見制

期高齢者・後期高齢者という呼称は耳障りだが、英語では「ヤング・オールド」という「ド・オールド」だ。認知症高齢者などの暮らしや財産を守る成年後見制

その役目を担う人を自治体が養成する「市民後見人」研修に、ヤング、世代の姿が目立つ。

東京都世田谷区の伊豆原夫妻(70)は、家裁に選任され、自分より10歳前後年上の男女3人の後見人を務めている。オールドを交える、ヤングだ。

約40年、仕中一筋だった。退職後に突然と「これから社会の役に立ちたい」と思っていた時、以前から名前を知っていた市民後見人の養成研修があると聞いた。「時間と経験があり、体も元気な我々の世代にふさわしい役割だ」

社会を支える責任感と充実感。それを伊豆原さんは抱きつつ、超高齢社会の現実にも目を向けている。

身寄りのない80歳の男性を後見人として見送った時、火葬場にはたのほ、男性が入っていた施設の責任

者「伊豆原さんだけだった。同様の経験は今後、たくさん増えていくだろう。」

団塊世代がヤング、に位置する今後10年は、超高齢社会の分水嶺だ。その意欲と能力が、経済活動やボランティアなどに発揮されれば、日本人の人生観や人生設計を書き換えるかもしれない。

問題は、10年しか期間がないことだ。団塊世代が「オールド」になる時に、市民後見人のような、新たな支え合いの仕組みをどれだけ定着させることができるだろうか。島耕作75歳の姿が、表在感を持つだろうか、まだ分からない。

社会部 小泉 朋子